お問い合わせ・お申し込みは、保健センター
TEL 42－9055 FAX 42－9054

感染の自覚が少ないウイルス性肝炎

あなたは、肝炎ウイルス検査を受けましたか？

肝臓は「沈黙の臓器」とも言われ、ウイルスなどに感染しても重症化するまでは気付かないことが多く、そのため知らない間に感染し、症状が進んでいることがあります。

「元気だから大丈夫」と思わずに、検査を受けて感染の有無を確認しておくことが大切です。

肝炎ウイルスの種類

肝炎を起こす原因にはいろいろありますが、日本では肝炎ウイルスの感染によるものがほとんどです。現在分かっている肝炎ウイルスはA型、B型、C型、D型、E型、G型の6種類ですが、日本人に多いウイルス性肝炎はA型、B型、C型の3種類です。

B型とC型が要注意

この中で、肝硬変や肝臓がんといった重い肝臓疾病への移行率が極めて高いのは、B型とC型です。どちらも感染者の血液、体液を介して感染します。昔は輸血による感染が多かったようですが、現在はチェック体制が整っているので、国内で輸血による新たな感染の可能性は、極めて低くなっています。

B型肝炎

日本人の150万人がB型肝炎ウイルスに感染していると考えられています。性行為などで感染すると急性肝炎を引き起こします。まれに激しい症状を起こす人もいますが、症状が軽い場合は気が付かないこともあります。

ところが、母子感染や赤ちゃんのときの感染では、肝炎ウイルスが体に住み付いてしまう場合があります。そのため、母子感染については、予防措置をとるために妊婦の血液検査が行われています。

C型肝炎

C型肝炎ウイルスには、日本人の100万～200万人が感染していると考えられます。感染者が多い割には、自覚症状がほとんど無いため、感染に気が付いていない人が多いようです。

C型肝炎は慢性肝炎になりやすいため、放置すると、肝硬変や肝臓がんを引き起こす可能性があります。

感染が分かったら

日常的な接触で感染することはありませんが、家族や他人への感染を防ぐため、次のことに注意しましょう。

▼献血や臓器提供をしない。
▼出血で手当を受ける場合、相手に血液などが付かないように気を付ける。
▼血液や分泌物が付いたものは捨てるか、流水で洗い流す。
▼カミソリや歯ブラシなどは自分専用のものを使う。
▼赤ちゃんに口移しで食べ物を与えない。

肝炎ウイルス検診を受けましょう

平成14年度から5年間の予定で実施してきた肝炎ウイルス検診は、今年11月21日で終了となります。**今年度内に40歳から74歳になるかた**で、この5年間に肝炎ウイルス検診を受けていないかたは、ぜひ受診してください。

今年度の対象者には、地区ごとに順次ご案内を発送しています。まだ案内の書類が届いていない場合や、昨年までの対象であったかたが受診を希望される場合は、詳しい日程と必要書類を再度郵送いたしますので、**11月10日㈮**までに保健センターにご連絡ください。

検査内容
血液検査によるB型肝炎・C型肝炎ウイルスの検査

今年度の対象者
今年度内に**40・45・50・55・60・65・70歳**になる市民のかた（すでにB型・C型肝炎と診断されているかたは受診の必要はありません）

《ご案内の書類発送状況》
11月1日に発送済み
▼大館地区・釈迦内地区・上川沿地区
▼基本健診を医療機関方式で行う長木地区のかた
▼基本健診を医療機関方式で行う下川沿地区のかた
※これ以外の地区のかたには、5月～8月までに発送済みです。

受付期間　11月1日㈬～10日㈮